基礎醫學

○齒牙毀損ニ關スル研究

Recherches sur les mutilations dentaires.

par P. Huard, et E. Leriche

(La Revue de Stomatologie, No. 10, 1938)

(假ニ齒牙毀損ト譯シタガコレハ未開人が人工的ニ齒牙ヲ變形スルコトデアル。) 著者等ハ印度支那ニ於ケル若干ノ住民ノ齒牙毀損ニ關スル研究ヲナシ、併セテ世界ニ於ケルソノ分布ノ概略ヲ述ベテキル。

1. 有史以前ノ齒牙毀損 コレハ極東ノ史前考古學者ニヨリ記載サレテキル。松本氏ハ日本ノ石器時代住民ニ就テ若干齒牙ノ拔去乃至人工的變形ヲ記載シテキル。拔去ハ主トシテ切齒ト犬齒ヲ、時ニハ小白齒ニモ行ハレル。又時トシテ切齒ハ保存セラレテキルガ、ソノ齒冠ハ變形セラレ尖頭ニナツテキル(抄者註: 本誌第10卷434頁抄録「日本民族中ノ南方要素ノ問題ニ就テ」參照)。カ、ル風習或ハコレニ似タモノハ原始的生活ヲ營メル住民殊ニ日本ノ近ク臺灣又ハフィリッピンノ住民ニ存スル。併シ現代「アイノ」人ハコレヲ知ラスト云ハレテキル。Snell ハジャバニ於テ同様ノ事實ヲPoeger 人ノ頭骨ニ見タ。又印度支那ノ Fromaget, Saurin 兩氏ハ、安南山脈ニ於ケル新石器時代ノ成人ハ皆4本ノ側切齒ヲ缺イテキル事、Jarres 平原ノ洞窟ニ於テ鐵器時代人20例中18例及ビ Luang Prabang ノ下流 Pac-Neun ノ北東ニ於ケル沖積層ノ1米下ニ埋没セル1個體ニ於テ、上顎2切齒ノ毀損ヲ見タト記載シテキル。又ソノ外若干ノ史前人頭骨ニ珍シイ齒牙磨耗が見出サレルガ、Beaudoin 氏ハ之ヲ土食習性ニヨルモノト説明シテキル。土食ニ就テハ後述スル。

2. 現代ノ齒牙毀損 コノ風習ハ原始的住民ニ於テハカナリ廣ク分布シテキル。アフリカニ於テハ多クノ學者ニヨリ研究サレタ。Labouret 氏ハ就中 Lobi ノ住民ニ就キ研究シタ。同氏ニヨレバ、口唇毀損ハ婦人ノミデアルガ齒牙毀損ハ男女トモ行ハレル。方法ハ鐵鑿ト鐵槌トヲ以テ上下顎ノ切齒(多クノ場合上顎ノミ)ヲ尖ラセルノデアアル。Monterio 氏ハ Porto(抄者

註: イタリー?) 醫科大學博物館所藏ノ Humbe 地方(Mutano-Angola)ヨリ出タ頭骨6箇ニ於テ下顎犬齒ノ缺如ヲ認メタ。ソノ齒槽縁ノ高度ノ吸收カラ若年時ニ拔去サレタモノラシイト想像シ、コレヲ人種的齒牙毀損ナリト鑑定シタ。

南米及ビ中米ニモ同様ノ習慣ガアル。Nelson, Dembo 氏等ニヨレバ、齒牙ハソノ遊離縁ヲ1乃至數箇ノ尖頭ニ刻ミ、ソノ前面ニ金、土耳其玉、赤鐵鑛(hématite)、水晶等ヲ象眼ニスルトイハレル。

亞細亞、極東、南洋諸島、太平洋島嶼ニモ同様ノ齒牙毀損ヲミル。Malabar(抄者註: ジャバ? 但シ印度ニモ同地名アリ)ニ於テハ上顎切齒ヲ圓形ニ削ル。ニューカレドニア島、Viti 諸島、ハワイニ於テハ齒牙ノ穿孔が行ハレル。蘭領ニューギニアテハ齒牙ヲ尖ラス。ニューヘブリデス諸島ニ於テハ女ノ上顎切齒ヲ結婚ノ際ニ破折スル風習ガアル。オーストラリヤノ東部及ビ南東部ノ種族ニ於テハ齒牙ノ剔出ハ仲間入り(initiation)ノ主ナル儀式デアアル。彼等未開人ニトツテハ齒牙ハ生命ノ一部ト考ヘラレ、ソレニヨツテ死後ノ生命ヲ保證センガ爲メ齒牙ヲ供ヘルノデアアル。齒牙ガ身體ノ他ノ部分ニ比シテ不朽性ナルコトヲ生命不滅ノ希望ニ結ビツケルコトハ彼等ノ考ヘサウナコトデアアル。事實 Victoria ノ若干ノ種族ニ於テハ拔去齒ハソノ母ニヨリ祕カニ若イ有加利樹ニ隠サレ、爾來ソノ木ヲ聖ナルモノト考ヘテキル。又中央族ノ或ル者ハ拔去齒ヲ傳說ノ祖先ノ生地ノ方向ニ投ゲル。南支ニ於テハ Ya Ya Kihlaos(Kouei Tchéou)族ハ嫁入りノ直前ニ1—2本ノ前齒ガ拔去サレル。臺灣ニモ思春期ニ齒牙毀損ノ儀式が行ハレル。即チ男女トモ上顎ノ2本ノ犬齒ガ拔去サレル。(抄者註: 本誌第10卷135頁抄録「臺灣蕃人ニ於ケル拔齒ノ風習ニ就テ」參照)。

南洋諸島及ビ馬來中島ニ於テハ殆ド到ル所ニ齒牙(特ニ前齒)ヲ尖ラセタリ、齒冠ヲ水平ニ切ツタリスル風習ガアル。フィリッピンノ Négrito 族ハ齒牙ヲ削ツテ尖ラセル。セレベスノ中部ニ於テハ少女ノ切齒ノ一部、所ニヨツテハ12本(切齒、犬齒)トモ抜カレル。Engano(抄者註: スマトラノ西南端ノ小島)ニ於テハ

女ハ結婚後上顎切歯ヲ破折セラレル。Bali (抄者註: ジャバノ東ニ接シタ島)ニ於テモ同様ノ毀損ガ結婚前ニ特殊ナ術者ニヨリ行ハレル。ホルネオニ於テハ土人ハソノ齒牙ニ非常ニ複雑ナ技巧ヲ施ス。即チ思春期ニ於テ6本ノ切齒ニ鋼鐵ノ管ヲ貫通サセル。勿論何等麻酔ナド施サナイノテ非常ニ苦痛ガ多イ。コノ孔ハ前面ニ星形或ハソノ他ノ形ヲ有スル銅塊ヲ以テ塞ガレル。コノ銅塊ハ自ラ隨時取外シテ弄ブコトガ出來ル様ニサレテキル。E. Mjöberg 氏ニヨレバ、以上ノ處置ノ後齒牙ハ失活スル。次イテ齒牙ヲ尖ラセル。ソシテ特殊ノ石磐ヲ挽イテ粉ニシ、單寧質ニ富シタ木ノ灰ヲ混ジテ作ツタ捏粉ヲ幾度モ齒牙ニ塗ツテ黒光リスル様ニスル。コレハ毎週新ニスルト。

印度支那ニ於テハ Moï (抄者註: 奥地ニ住ム生蕃)ガ同様ニ齒牙ノ毀損ト黒染ヲ行フ。コレハ思春期ニ行ハレル一ツノ儀式デアル。施術ハ6—15日ツマク。方法ハ輕石ノ類ニヨツテ削ルノテ、下顎ノ切齒ハ三角形即チ猫ノ齒ノ形ニ、上顎ノ切齒ハ半圓形ニ或ハ時ニヨツテハ水平ニサヘ削ラレル。何人モ免レラヌ傳統ノ習慣デアル。刀ト槌ヲ以テ打撃ヲ加ヘテ行フコトモアル。Moï ノ中ノ Mnong 族ニ於テハ14—15歳ノ頃行ハレルモノデ、器具ハ一種ノ鋸デアツテ上顎齒ハ殆ド齒頸部ニ於テ施術セラレル。切斷ノ後菱形ノ平ナ石ヲ磨カレル。下顎齒ハ圓錐形ニ削ル者モアル。彼等モ亦齒ニ塗料ヲ用ヒル。Bérén 氏ニヨレバ Moï ノ齒牙毀損ハ男女共ニ行ハレルガ、次第ニ神聖ノ義務的ノ性質ヲ失フ傾ガアリ、學校ニ入ル者ナドハ健全ナ齒牙ヲ持ツテキルトイフ。Moï ノ中ノ Rhadé 族ハコノ施術ノタメニ商店ヲ求メタ文化的ナ金ノ器械、鑿、刀ナドヲ使フ。Mnong 族ハ鑿モ槌モ使ハズニ川ニ見出サレル片岩性硬度ノアル石ヲ以テ長イ間カ、ツテ削ルコトモアル。齒牙ノ黒染ニ Moï ガ用ヒル塗料ハ Kay 又ハ Krei ト呼バレル灌木カラ作ラレル。Rhadé 族ハコレヲ齒痛ノ際ニ患齒ニ應用スルコトモアル。黒染ノ方法ハ切ツタ枝ノ皮ヲ剥ギ、加温シテ流レ出ル樹液ヲ金屬板上ニ集メ、食指ヲ以テ塗り込ムデアル。

Bonifacy 氏ニヨレバ Tonkin (東京)ノ高地ニモ齒牙毀損ノ風習ガアリ、彼等ハソノ齒牙ニ適合シタ金ノ小函ヲ作ツテ上下顎ノ齒ニ被セルト。

3. 土食 コノ習性ハアフリカ、アメリカ、ニューカレドニア、ジャバ、歐洲 (スエーデン、フィンランド)、シベリヤ、マダガスカル、印度支那等ニ廣ク存

スル。Beaudoin 氏ハコレニ關シタ多クノ論文ヲ發表シ、新石器時代人ノ齒牙ノ磨耗ヲ土食ニ歸シテキル。土食ハ(1)饑饉ノ際ニ飢ヲ凌グ爲メ、(2)精神錯誤ノ爲メ、(3)儀式的慣習ノ爲メ等ニ原因スルモノデアラウ。マダガスカルノ市場ニハ、精製シタ Kaolin (陶土)カラ出來テキル「チーズ」ニ似タ「パン」菓子ノ様ナモノ (Taniravo トイフ)ヲ賣ツテキル。コレハ水ニ溶カシテ色々ノ用途ニ供サレ、特ニ兜ヤ履物ヲ白クスルニ用ヒラレル。Malgache 族ハ下痢ト赤痢ニ藥トシテ用ヒル。又神經痛ヤオ多福風邪ヲ癒ス爲メニ之ヲ以テ罨法ヲスル。併シ注目スベキハ若干ノ住民ハコレヲ食スルコトデアル。二三ノ學者ニヨリコノ土食者ノ著シイ3例ガ報告サレテキルガ、ソノ症狀ハ主トシテ高度ノ貧血トソレニ伴フ種々ノ障礙デアル。Anémie porcelanique ト呼バレル。攝取量ハ區々デアルガ1例デハ1日ニ50—100瓦食フ。著者ノ1觀察例デハ他ノ原因ニヨリ病院ニ2ヶ月入院シテ土食ノ習慣ヲ忘レテキタ常習者ガ偶クソノ室ノ壁ヲ Taniravo デ白ク塗り換ヘラレタ時ニソノ壁ヲ搔キ落シテ食ツタト。

Tonkin (東京)ニモ土食者ガアル。コレモ瓦菓子ノ形ニ出來テ市場ニ賣ラレテキル。分析ノ結果ハ硅酸「アルミニウム」デアツテ鐵鹽ト「マンガン」鹽ノ痕跡ヲ含ンデキル。何等味ハナイガ彼等ハ砂糖菓子トシテ子供ニ與ヘ、成人モ亦食スルノデ時ニハ酒ヲ吞ミナガラ食フトイハレル。妊娠シタ女ハ藥トシテコレヲ食用スル。サテソノ齒牙ニ及ボス影響ハ Laos (印度支那ノ中部)等ヲ觀察シタ Maupetit 氏ニヨレバ、子供ニ於テハ乳齒列ノ齒ハ總テノ場合全ク磨耗シテキタ。時ニハ切齒乃至犬齒迄ニ限ラレテ居タ。方向ハ常ニ同ジデアツテ即チ、下顎デハ外側ノ咬頭ガ磨耗シ齒牙ハ外側ニ斜ノ皿形ヲナシ、上顎デハコレニ反シテキル。1—2例ニ於テハ磨耗ハ齒冠ガ殆ド殘ラヌ程高度デアツタ。ソノ磨耗面ハ非常ニ滑澤デ邊緣ハ圓ク或ハ鈍ニナツテキル。ソシテ同心圓的ニ3色ニ著色シテキル、即チ外層ハ青味ガ、リ、中層ハ白黃色、内層ハ黃色味ヲ帶ビテキル。成年者ニ於テハ高度デ齒牙ハ全ク滑カナ皿形ヲナシテキル。ソノ傾斜方向ハ前述ノ子供ト同様デアル。又磨耗ハ白齒ノミナラズ切齒犬齒ニモ明瞭デアル。要スルニ土ノ性状並ニ攝取法ニヨリカ、ル特殊ナ齒牙變形ヲ惹起シタリ又ハ重篤ナル全身障礙ヲ生ジタリスルモノ、様デアル。(附記。技術ヤ奇習等ニ關シテハ興味深イモノガアル)。(駒井駿吉)